

講義名	経営革新論			授業形態	
担当教員	井上 芳郎	開講期・曜日・時間	後期 木曜日 3 時間		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

今から40年ほど前、「会社の寿命は30年」というセンセーショナルなタイトルの書籍がベストセラーになりました。日経ビジネスに掲載された記事をもとに書かれたものでした。当時、大学を出て仕事を始めたばかりの僕は、「会社の寿命が人間の平均寿命より短いなんて信じられない」という思いでした。その後、このセンセーショナルなフレーズを正確に言うと、「同じことはかりやっている企業の寿命は長くもっても30年だ」と理解し、納得したものです。実際のところ、30年以上の寿命を維持している会社は多くありますし、世界で最も古い会社(すなわち最も長生きしている会社で「金剛組」といいます)は、聖徳太子の時代に生まれたとされています。この会社は、現在1450歳くらいということになります。これは標準な例ですが、世の中に多く存在する長生きの会社に共通することがあります。それは現状に満足することなく、常に自分の会社を「変えている」ということです。これはある意味では当然のことです。世の中は常に変化しています。その変化を受け入れずに自分たちの殻に閉じこもっている、自ずと時代遅れになり、やがて誰も振り向いてくれなくなってしまうでしょう。このように、常に自分たちの会社を変えることを「経営革新」といいます。英語では「イノベーション」といいます。ほぼ日本語として市民権を得ている言葉です。本事業では企業が「経営革新」あるいは「イノベーション」を継続的に実施していくためにはどのようにすればいいかを学んでいきます。

到達目標

多くの学生(起業する学生以外)は企業に就職するでしょう。その企業が発展するためには持続的な経営革新が必要なのは先ほど述べました。この授業では以下に述べる二つの能力を身につけてもらいたいと考えます。

1つ目は、ある企業がどの程度経営革新に積極的に臨んでいけるかを判断する能力です。これは「企業診断能力」と呼ばれるものになります。

2つ目の能力は、企業診断で明確になった課題を解決しつつ将来の発展の道筋を構築する「戦略策定能力」です。

以上の二つの能力を、この授業を通じて身につけていただきたいと思います。

上記を皆さんの立場から「○○ができるようになる」という形で表現すると以下ようになります。繰り返しですが、確認して履修登録をしてください。様々な視点から企業を診断することができるようになる。企業の戦略を策定することができるようになる。

以上です。

提出課題

この授業は原則として反転授業(予習をしていることを原則として授業を進める方式)で運営します。授業中に実施する課題を解いてもらうということで課題提出となります。別途提出課題を課す場合は授業で説明して実施します。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

フィードバックは授業の中での紹介を通じて行います。なお、授業においてレポートの内容などを紹介する場合、個人名を出すことはしません。皆さんが書いたものを、プロジェクターで投影する(パワーポイントのスライドのように映し出す)場合がありますが、その場合誰のものかはわからないようにおこないます。

評価の基準

授業での貢献: 30%。主として出席状況で判断します。出席状況はweb等の応答状況で判断します。ただし受講者数によって把握方法を変更する場合があります。授業中のテスト: 30%。原則として反転授業のため、授業中に随時テストをおこないます。期末筆記テスト: 40%。なお、「筆記テスト」は、レポート等で実施する場合があります。レポートの場合は「手書き」を原則とします。

履修にあたっての注意・助言他

「到達目標」のところで述べた二つの能力は、企業経営に関わる種々の学問領域を学ぶことで身につけることができます。すなわち、企業診断能力は、SW分析、管理会計、財務会計、マーケティング、組織、といったことを学ぶことで、高めることができます。戦略策定能力は、基本的には企業診断で明確になった課題を解決するための方法を考えることになり、現状と将来のあるべき姿の間に隔たわるギャップをいかに解決するかを考えることになり、創造的発想的な発想が必要になります。自論については、それぞれ関係する授業でしっかりと学ぶようになってください。合わせて、この授業を通じて疑問や興味を感じた点に関しては、さらに深く学ぶ姿勢を持ち続けることが大切です。

教科書

経営戦略 ベーシック+プラス	井上達彦/中川功一/川瀬真紀[編著]	中央経済社	2400	978502325014
----------------	--------------------	-------	------	--------------

参考図書

その他

- ・この授業は、原則として教科書をベースに進めていきます。必ずテキストを購入して授業に参加してください。
- ・教員が準備する資料は、教科書を読むための補助教材と考えてください。
- ・補助資料は、原則としてポータルから各自ダウンロードしてください。教員は印刷しません。
- ・資料閲覧のために、授業中にノートパソコンやタブレットを使用しても構いません。ただし、スマートフォンやスマートウォッチによる閲覧は避けてください。いくら目が良くても、です。あるいは、ミラーリングで別途ディスプレイに投影するという方法も、他の受講生にとって邪魔となりますので禁止とします。
- ・参考文献については、授業で紹介します。
- ・その他、キャンパスクロス(講義連絡)及び授業中の教員の指示に従って対応してください。

授業計画

1. シラバスの確認(授業概要、授業目的、受講にあたっての留意事項等)
2. 方向と戦略
3. 戦略分析(利益: プロフィット)
4. 戦略分析(構造: ストラクチャー、位置: ポジショニング)
5. 戦略分析(資源: リソース、資源: リソース)
6. 中間のまとめ
7. 戦略の構想(構想: デザイン、洞察: フォアサイト)
8. 戦略の構想(逆転: リバース)
9. 戦略の構想(類推: アナロジー)
10. 戦略の構想(証言: プロトタイプ)
11. 戦略の構想(検証: パリテーション)
12. 戦略の構想(人脈: ネットワーク)
13. 全社の戦略(相乗: コーレレート)
14. 全社の戦略(相乗: シナジー、範囲: パウダラー、社会: ソーシャル)
15. まとめ

<上記は教科書の主な項目を列挙しています>
<授業内容は、社会情勢、授業の進捗度によって変更する場合があります>

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア: PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/>	イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ: ディスカッション、ディベート		エ: グループワーク
オ: プレゼンテーション		カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)		

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

原則として、教科書に沿って授業を進めます。原則として反転授業(予習をおこなっていることを前提として授業を開始、進める方法)を導入します。基本的には予習の範囲の指示はしません。予習・復習は授業の進度を踏まえつつ、独自の判断で計画的に行ってください。できれば何回か先(2-3回)の部分を読むように心がけてください。本は回数を重ねて読む続けることで、読む人の血となり肉となります。何度も繰り返し読むようにしてください。また、かなり難しい概念が出てきます。十分に時間をとって、予習及び復習を行うことを期待します。反転授業のため、随時、知識確認等を授業の場で実施する場合があります。その場合、結果は評価に反映されます。

学修時間の目安は、予習2時間、復習2時間です。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業は、商学部経営学科の「起業・事業承継コース」と関連が深い科目です。当該コースのディプロマ・ポリシーである、「新事業を創出するための基礎となる、マーケティング理論や経営理論を理解できる、起業や事業承継(第二創業)、社内ベンチャーなどについての夢やビジョンを、具体的な事業計画として立案することができる。この2つを目標としています。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

SDGsを踏まえ、ノートパソコンやタブレットを持参して授業を受講することを推奨します。ただし、ノート等の記録を積極的にとることは推奨します。

実務経験の有無及び活用

大学卒業後は、製菓会社、機械工具製造会社で勤務する中で経営学に対する興味を持ち、いまから三十数年前に、経済産業大臣が認定する「中小企業診断士」という資格を取得しました。その後経営コンサルタント/タレントに転職し、主として中小企業の経営コンサルティング業務に従事しました。そのなかで、社会人大学院でも学びました。2002年に本学教員となりました。

備考

ありません。